

201123053A (別添あり)

厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

平成23年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 富澤 一郎

平成24(2012)年 3月

平成23年度

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究組織

研究代表者

富澤 一郎 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究分担者

竹田 誠 国立感染症研究所 ウイルス第3部長

研究協力者(PO)

内山 武彦 常磐大学人間学部健康栄養学教授

神田 忠仁 (独)理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター
業務展開チーム チームリーダー

森 亨 桔核予防会結核研究所 名誉所長

脇田 隆彦 国立感染症研究所ウイルス第2部 部長

(所属・役職は、研究班参加時のもの。)

研究分担者、研究協力者は、五十音順・敬称略)

目 次

I. 総括研究報告

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究…………… 1

富澤 一郎 国立感染症研究所企画調整主幹

【資料】

1. 平成23年度新規採択課題(1年目研究課題)
2. 平成23年度継続課題(2年目研究課題)
3. 平成23年度終了課題(3年目研究課題)
4. インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 PO 意見一覧表
5. 感染症に関する国際情報収集(宮川先生)
6. 感染症に関する国際情報収集(大西先生)
7. 厚生労働科学公募研究事業の概要等(抜粋)

Ⅱ. 分担研究報告

研究評価支援システムの開発…………… 31
富澤 一郎 国立感染症研究所 企画調整主幹

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究
(分担報告)…………… 34
竹田 誠 国立感染症研究所ウイルス第3部長

【別添】

平成23年度厚生労働科学研究費補助金
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究成果の概要

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
総括研究報告書

平成23年度 新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究代表者 富澤 一郎 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を総合的に適切かつ円滑で効果的に実施することは、厚生労働省の感染症対策の総合的推進において必須である。本研究は、感染症研究等の専門家による同事業で実施する研究課題についての研究の企画と評価を行うとともに、情報提供や調整を行う。感染症研究の企画・評価に必要な情報収集・調査を実施し、円滑かつ適切な研究評価を行うための研究情報の共有方法について研究し、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究の総合的推進に資するために本研究を行う。

研究分担者

竹田 誠 (国立感染症研究所)

A. 研究目的

新興・再興感染症に対する迅速かつ適切な対応は、国民の健康を守る上で重要な施策の一つである。しかし、その対象となる感染症は多岐にわたっており、希少な感染症や今後の発生も想定される新たな感染症もある。このため、今後とも適宜適切な対応を行っていくためには、日頃から対応の基礎となる最新の知見を幅広く集積することが重要で、その研究体制を確保し、対応の決定に科学的根拠を提供するための研究の推進を図っておくことが必要である。

厚生労働省においては厚生労働科学研究費補助金・新型インフルエンザ等新

興・再興感染症研究事業を中心として行政ニーズに直結した新興・再興感染症研究を推進しているが、当該事業を適切かつ効果的に実施することは対応を行う上で不可欠であり、研究課題の設定、研究者の選考、研究費の配分、研究成果の評価と研究を実施する研究者への支援を適切に行うことが求められている。

本研究課題では、新興・再興感染症研究に関する情報の収集、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価の支援及びこれらを通じて評価者、研究者等への支援方法等についての検討を行い、その成果を厚生労働省(具体的には、健康局結核感染症課)へ提供することにより、我が国における新興・再興感染症対策の適切な実施に資する研究の推進に寄与することを目的としている。

B. 研究方法

1 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

平成23年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業により実施された公募研究課題(一般公募型及び若手育成型)に関して、厚生労働本省が行う研究の企画・評価等の支援として、以下1)~3)を行った。

- 1) 感染症研究の専門家による評価組織(以下「評価委員会」という。)との連絡、情報共有等の実施
- 2) 研究協力者(プログラムオフィサー)等による研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、ピアレビューの実施と評価委員、厚生労働省との情報共有
- 3) 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究発表会の実施

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

国内外の会議への参加、文献収集等により、新興・再興感染症研究の企画・評価及び研究の実施に資する関連情報の収集と関係者との情報共有

3. 評価支援システムの開発

中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を行うシステムを開発した。

(倫理面への配慮)

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いること

はなく、疫学研究に関する指針、臨床研究に関する指針等に関して特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないよう十分に配慮する。

C. 研究結果

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

(1)平成23年度実施公募課題(※1) (中間・事後評価)

※1 平成23年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の公募研究課題

1年目研究課題	29課題	【資料 1】
2年目研究課題	18課題	【資料 2】
3年目研究課題	16課題	【資料 3】

1)研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

平成23年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者及び3名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席した(※2)。

研究班会議に出席した研究課題は、平成23年度に実施された公募課題研究63課題のうち33課題である。

※2 研究班会議出席状況等 【資料 4】

研究班会議の状況についてはレポートを作成の上、研究評価の参考資料として評価委員、厚生労働省との情報共有を行った。レポートは、中間・事後評価を実施する時期の1ヶ月前までに情報共有するとともに、その後、評価委員会までに開催された研究班会議についても適宜情報共有を行っている。

2) 研究成果の取りまとめ

全公募研究課題の研究代表者に対して成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。

この成果概要は、評価委員による評価資料とするとともに、各研究課題の研究代表者の了承を得た上で「研究成果の概要(※3)」として冊子を作成し、研究及び対策の実施に当たっての参考資料として新興・再興感染症研究にかかわる評価者、研究者及び厚生労働省等の関係者に配布するとともに、セキュリティに配慮した上で、後述の研究発表会の状況と併せてweb上での閲覧を試行する。

※3 研究成果の概要 【別添】

3) 研究発表会の実施

2年目研究課題及び3年目研究課題を対象に、平成24年1月30日に研究発表会を実施した。

研究発表会は、評価委員によるヒアリング等の場とするとともに、他研

究課題の成果を共有する機会として新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の全研究課題の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。また、成果発表会での発表内容について関係者との情報共有を推進するため、発表者に了承を得て音声記録を行い、2)の研究成果資料とともにweb上で関係者における共有を試行することを予定している。

(2) 平成24年度 新規申請課題

(事前評価)

平成24年度研究課題として申請のあった研究課題について、採択の妥当性、研究規模等に関する評価委員による評価を適切かつ円滑に実施することを支援するため、申請課題の事前評価に関する資料の作成とヒアリング等の実施を支援し、その内容を厚生労働省へ提供した。

なお、ヒアリングについては、評価委員に対して行った評価方法に関する意見聴取等を踏まえて、平成24年2月29日に実施した。

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

厚生労働省の新型インフルエンザ専門家会議、新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会等の傍聴、第4回日中韓感染症対策シンポジウム(平成23年11月16日-18日、於:韓国)など、新興・再興感

感染症研究の専門家、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を実施する研究者等との意見交換を通じて国内における関連研究に関する情報収集を行った(【資料5】)。

これらを通じて、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において推進すべき課題等の把握を行うとともに、今回の新型インフルエンザの発生を受け、分担研究者がアジアを中心とする開発途上国への対応支援の観点から求められる研究内容等について情報収集を行った。その結果、国内組織による研究の推進はもとより、アジアを中心とした国際的な共同研究の推進及び連携体制の構築の観点からも新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業を活用することの必要性、研究の企画とその課題設定等についての検討を行うことの重要性を認識した。(【資料6】)

これらの新興・再興感染症研究に関して収集した情報は、厚生労働省における平成24年度の公募研究課題の立案・公募要項(※4)の作成の参考としても活用されることを想定し、適宜、厚生労働省と情報共有を行った。

※4 平成24年度厚生労働科学公募研究事業の概要等(抜粋) 【資料7】

3. 評価支援システムの開発

現在、中間・事後評価委員会委員

が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を書面により行っている。この業務を効率化するため、WEBを用いて評価を行うシステムを開発した。

D. 考察

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の対象となる感染症は、新型インフルエンザを代表とする発生前から事前対応を求められている感染症、ウイルス性出血熱やSARSのように重篤な輸入感染症として認知されている新興感染症、麻疹や結核、インフルエンザのように社会的な問題として認知されている感染症、多剤耐性菌や成人の百日咳等しばしば報道もなされて認知が高まっている感染症、さらには一般国民にはあまり注目されていないと考えられる感染症等、非常に多岐にわたっている。また、一般的に注目されている感染症に対する研究の推進とその成果の対応への還元が重要であることは言うまでもないが、あまり注目されていないと考えられる感染症であっても、常に基盤的な研究が継続されなければ問題が発生した際の対応が困難であることは明白であり、単に注目の高低のみで研究の意義や重要性を判断することは難しい。

国際共同研究に関しては、ベトナムやラオスでの腸管感染症は非常に機微な問題であり、かつ、外国との研究に関心をもっているため、腸管感染症に対する共同研究を実施することが重要であるこ

とが実感された。双方のメリットを考慮した国際共同研究が求められる。

限られた予算と当該研究分野における研究者のマンパワーを最大限に活用し、これらの期待に応える効率的・効果的な研究を推進するためには、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価において、これまで実施されている研究の内容や成果を適切に把握するとともに、研究を取り巻く行政的なニーズ、国際的な研究の状況に基づく企画・評価等を行って効率的に研究を実施することが求められる。また、これらの企画・評価等に基づく研究を適切に実施し、確実な成果が得られるよう研究者を支援することは非常に必要と考えられる。

また、非常に多岐にわたる感染症に関する基礎から応用、自然科学的分野から社会科学的分野にいたる種々の研究課題を目的に応じて適切に評価するためには、数値的な評価指標のみでは困難であり、ピアレビューも含めた複数の視点から行われることが必要である。

E. 結論

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の適切かつ円滑な実施を図るため、新興・再興感染症関連研究に関する情報の収集及び当該研究事業において実施される研究の企画・評価及び研究実施の支援を行った。研究発表会の開催やピアレビュ

ーなど、評価の充実とともに、疫学的方法論に基づく研究の実施が、研究の質向上に役立つと考えられた。

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

平成23年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択研究課題一覧

＜中間評価 1年目＞合計 29件

	No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名	開始	終了
1年目 一般 22件	1-1	H23-新興- 一般-001	石川 信克	(財)結核予防会結核研究所	所長	地域における効果的な結核対策の強化に関する研究	23	25
	1-2	H23-新興- 一般-002	岡田 全司	(独)国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター	臨床研究センター長	海外から輸入される多剤耐性結核に関する研究	23	25
	1-3	H23-新興- 一般-003	押谷 仁	東北大学 大学院医学系研究科	教授	新型インフルエンザ発生時の公衆衛生対策の再構築に関する研究	23	25
	1-4	H23-新興- 一般-004	影山 努	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	室長	感染症の予防、診断・治療又は医療水準の向上のための臨床的研究	23	25
	1-5	H23-新興- 一般-005	片山 和彦	国立感染症研究所 ウィルス第二部	室長	網羅的ロタウイルス分子疫学基盤構築とワクチン評価	23	25
	1-6	H23-新興- 一般-006	加藤 康幸	独立行政法人国立国際医療研究センター 国際疾病センター	国際医療支援室医長	我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療・予防等の臨床的対応及び積極的疫学調査に関する研究	23	25
	1-7	H23-新興- 一般-007	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	バイオテロに使用される可能性のある病原体等の新規検出法と標準化に関する研究	23	25
	1-8	H23-新興- 一般-008	小林 和夫	国立感染症研究所 免疫部	部長	潜在性抗酸菌感染症の病態機構の解明及び診断・治療・予防に関する研究	23	25
	1-9	H23-新興- 一般-009	杉山 和良	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室	室長	国際的なバイオリスク管理の基準に基づく病原体取扱いと管理のモデル総合システムの構築と検証に関する研究	23	25
	1-10	H23-新興- 一般-010	高崎 智彦	国立感染症研究所 ウィルス第一部	室長	我が国への侵入が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的 対策の確立に関する研究	23	25
	1-11	H23-新興- 一般-011	田代 真人	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	センター長	高病原性の新型インフルエンザ発生に対する事前準備及び、緊急対応に関する研究	23	25
	1-12	H23-新興- 一般-012	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	予防接種後副反応サーベイランスの効果的な運用とその行政的な活用のあるり方に関する研究	23	25
	1-13	H23-新興- 一般-013	永田 恭介	筑波大学 医学医療系	教授	インフルエンザウイルス複製に関与する宿主因子とウイルス因子のインターフェースを標的とした新規抗ウイルス薬探索の基盤研究	23	25
	1-14	H23-新興- 一般-014	野崎 智義	国立感染症研究所 寄生動物部	部長	顧みられない寄生虫病の効果的監視法の確立と感染機構の解明に関する研究	23	25

	No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名	開始	終了
	1-15	H23-新興- 一般-015	長谷川 秀 樹	国立感染症研究所 感染 病理部	部長	経鼻インフルエンザワクチン等粘膜ワクチンの 有効性に関する研究	23	25
	1-16	H23-新興- 一般-016	浜口 功	国立感染症研究所 血 液・安全性研究部	部長	HTLV-1感染症の診断法の標準化と発症リスク の解明に関する研究	23	25
	1-17	H23-新興- 一般-017	廣田 良夫	大阪市立大学 大学院医学 研究科公衆衛生学	教授	予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等 についての分析疫学研究	23	25
	1-18	H23-新興- 一般-018	宮崎 義継	国立感染症研究所 生物 活性物質部	部長	地域流行型真菌症の疫学調査、診断治療法の 開発に関する研究	23	25
	1-19	H23-新興- 一般-026	増崎 英明	長崎大学 大学院 医歯薬 学総合研究科展開医療科 学講座(産婦人科)	教授	25年間継続した妊婦のHTLV-1抗体検査から得 られた母子感染予防効果の検証および高精度 スクリーニングシステム開発	23	25
	1-20	H23-新興- 一般-027	田中 勇悦	琉球大学 大学院医学研 究科	教授	HTLV-1感染拡大を阻止するワクチンならびに抗 体医薬等の開発基盤の確立	23	25
	1-21	H23-新興- 一般-028	駒野 淳	国立感染症研究所 エイ ズ研究センター	主任研究官	プロウイルスゲノム破壊による革新的HTLV-1 関連疾患発症遅延法の開発	23	25
	1-22	H23-新興- 一般-029	長谷川 秀 樹	国立感染症研究所 感染 病理部	部長	HTLV-1感染予防ワクチンの開発に関する研究	23	25
1年 目 若手 3件	1-23	H23-新興- 若手-022	堀田 明豊	国立感染症研究所 獣医 科学部	主任研究官	野兔病菌亜種間の病原性相異および動物種間 の野兔病感受性の相異に関する研究 (H24年 度終了予定)	23	24
	1-24	H23-新興- 若手-023	吉川 友章	大阪大学 薬学研究科	助教	体表面サイトカインクロストークならびに抗原動 態の最適制御による新規インフルエンザ粘膜ワ クチンアジュバントの開発	23	25
	1-25	H23-新興- 若手-024	渡利 彰浩	大阪大学 大学院薬学研 究科	助教	パイエル板指向性分子を利用した経口ワクチン の開発	23	25
1年 目 指定 4件	1-26	H23-新興- 指定-019	富澤 一郎	国立感染症研究所	企画調整主 幹	新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関 する研究	23	25
	1-27	H23-新興- 指定-020	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	アジアの感染症担当研究機関とのラボラトリー ネットワークの促進と共同研究体制の強化に関 する研究	23	25
	1-28	H23-新興- 指定-021	田代 真人	国立感染症研究所 インフ ルエンザウイルス研究セ ンター	センター長	細胞培養インフルエンザワクチンの実用化およ び流行予測とワクチン株選定に関する研究	23	25
	1-29	H23-新興- 指定-025	庵原 俊昭	国立病院機構三重病院	院長	沈降インフルエンザワクチンH5N1を用いたパン デミック対応(異種株連続接種によるパンデミッ ク想定株を含む幅広い交叉免疫性の獲得、1回 接種による基礎免疫誘導効果)の研究 (H24 年度終了予定)	23	24

平成23年度新型インフルエンザ新興・再興感染症研究事業 採択研究課題一覧

〈中間評価 2年目〉合計 18件

	No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名	開始	終了
2年 目 一般 17件	2-1	H22-新興- 一般-001	信澤 枝里	国立感染症研究所 インフル エンザウイルス研究セン ター	室長	新型インフルエンザH1N1のウイルスの病原性 等の解析に関する研究	22	24
	2-2	H22-新興- 一般-002	小林 信之	国立国際医療研究センター 呼吸器内科	医長	新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化 の要因の解明に関する研究	22	24
	2-3	H22-新興- 一般-003	切替 照雄	国立国際医療研究センター 研究所感染症制御研究部	部長	新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する 研究	22	24
	2-4	H22-新興- 一般-004	石井 健	独立行政法人医薬基盤研 究所 創薬基盤研究部ア ジュバント開発プロジェクト	プロジェクト リーダー	インフルエンザワクチンの有効性と安全性の向 上のための理論基盤構築	22	24
	2-5	H22-新興- 一般-005	小田切 孝 人	国立感染症研究所 インフル エンザウイルス研究セン ター	室長	地方自治体との連携による新型インフルエンザ および高病原性インフルエンザ変異株、薬剤耐 性株等の早期検出、検査診断系の改良および 流行把握に関する研究	22	24
	2-6	H22-新興- 一般-006	森川 茂	国立感染症研究所 ウイル ス第一部	室長	現在、国内で分離・同定できないウイルス性出 血熱等の診断等の対応方法に関する研究	22	24
	2-7	H22-新興- 一般-007	牧野 正彦	国立感染症研究所 感染 制御部	部長	結核等抗酸菌感染症における生体防御及び抗 菌制御を介した治療予防法の開発戦略	22	24
	2-8	H22-新興- 一般-008	河野 茂	長崎大学 大学院医歯薬 学総合研究科 感染免疫 学講座	教授	真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の 確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関 する研究	22	24
	2-9	H22-新興- 一般-009	苅和 宏明	北海道大学 大学院獣医 学研究科	准教授	海外からの侵入が危惧される野生鳥獣媒介性 感染症の疫学、診断・予防法等に関する研究	22	24
	2-10	H22-新興- 一般-010	山田 章雄	国立感染症研究所 獣医 科学部	部長	ワンヘルズ理念に基づく動物由来感染症制御に 関する研究	22	24
	2-11	H22-新興- 一般-011	木村 博一	国立感染症研究所 感染 症情報センター	室長	重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイランス・ 病態解明及び制御に関する研究	22	24
	2-12	H22-新興- 一般-012	竹田 誠	国立感染症研究所 ウイル ス第三部	部長	早期麻疹排除及び排除状態の維持に関する研 究	22	24
	2-13	H22-新興- 一般-013	生方 公子	北里大学北里生命科学研 究所 病原微生物分子疫 学研究室	特任教授	重症型のレンサ球菌・肺炎球菌感染症に対す るサーベイランスの構築と病因解析, その診断・ 治療に関する研究	22	24
	2-14	H22-新興- 一般-014	河内 正治	国立国際医療研究センター 手術部	部長	高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関 する国際連携研究	22	24

	No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名	開始	終了
	2-15	H22-新興- 一般-015	清水 博之	国立感染症研究所 ウイル ス第二部	室長	エンテロウイルス感染症制御のための診断・予 防治療に関する国際連携研究	22	24
	2-16	H22-新興- 一般-016	丸井 英二	順天堂大学 医学部公衆 衛生学教室	教授	情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する 適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関 する研究	22	24
	2-17	H22-新興- 一般-017	鈴木 哲朗	浜松医科大学 医学部医 学科感染症学講座	教授	培養細胞感染系の確立されていない病原体の 実験技術の開発と予防診断法に関する研究	22	24
2年 目 若 手 21件	2-18	H22-新興- 若手-019	黒田 誠	国立感染症研究所 病原 体ゲノム解析研究センター	センター長	抗菌剤治療により寛解する難治性炎症性腸疾 患患者の網羅的細菌叢解析と病因・増悪因子 細菌群の解明	22	24

平成23新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択研究課題一覧

	No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名	開始	終了
3年目 一般 15件	3-1	H21-新興- 一般-001	小野寺昭一	東京慈恵会医科大学 医学部感染制御部	客員教授	性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究	21	23
	3-2	H21-新興- 一般-002	岡部 信彦	国立感染症研究所 感染症情報センター	センター長	ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究	21	23
	3-3	H21-新興- 一般-003	寺嶋 淳	国立感染症研究所 細菌第一部	室長	食品由来感染症調査における分子疫学手法に関する研究	21	23
	3-4	H21-新興- 一般-004	吉川 泰弘	北里大学 獣医学部	教授	動物性由来感染症のリスク分析手法等に基づくリスク管理のあり方に関する研究	21	23
	3-5	H21-新興- 一般-005	小林 睦生	国立感染症研究所 昆虫医科学部	部長	節足動物が媒介する感染症への効果的な対策に関する総合的な研究	21	23
	3-6	H21-新興- 一般-006	岸本 壽男	岡山県環境保健センター	センター長	リケッチアを中心としたダニ媒介性細菌感染症の総合的対策に関する研究	21	23
	3-7	H21-新興- 一般-007	向井 徹	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター感染制御部	室長	ハンセン病の再発・再燃、難治症例に対する予防・診断・治療とハンセン病の啓発に関する研究	21	23
	3-8	H21-新興- 一般-008	荒川 宜親	名古屋大学大学院医学系研究科 分子病原細菌学/耐性菌制御学	教授	新型薬剤耐性菌等に関する研究	21	23
	3-9	H21-新興- 一般-009	西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部	部長	臓器移植患者の予後およびQOLの向上のための真菌やウイルス感染症の予防・診断・治療に関する研究	21	23
	3-10	H21-新興- 一般-010	森島 恒雄	国立大学法人岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	教授	インフルエンザ脳症など重症インフルエンザの発症機序の解明とそれに基づく治療法・予防法の確立に関する研究	21	23
	3-11	H21-新興- 一般-011	加藤 達夫	国立成育医療研究センター	理事長 総長	成人感染が問題となりつつある小児感染症への対応に関する研究	21	23
	3-12	H21-新興- 一般-012	谷口 清州	国立感染症研究所 感染症情報センター	第一室長	国際的な感染症情報の収集、分析、提供機能およびわが国の感染症サーベイランスシステムの改善・強化に関する研究	21	23
	3-13	H21-新興- 一般-013	篠原 克明	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室	主任研究官	病原体等の登録・保管・輸送・廃棄に関する一括管理システムの開発と検証	21	23

	No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名	開始	終了
	3-14	H21-新興- 一般-016	加藤 誠也	(公財)結核予防会結核研 究所	副所長	結核対策の評価と新たな診断・治療技術の 開発・実用化に関する研究	21	23
	3-15	H21-新興- 若手-014	大屋 賢司	国立大学法人岐阜大 応 用生物科学部	准教授	動物由来クラミジアの自然界における存在 様式の解明—比較ゲノム解析及び種特異 的診断法の開発と実態調査	21	23
2年目 若手 1件	3-16	H22-新興- 若手-020	西村 順裕	国立感染症研究所 ウイ ルス第二部	主任研究官	コクサッキーA16型ウイルス特異的受容体 の同定と機能解析(研究期間2年)	22	23

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 PO意見一覧表

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-1 (一般)	石川 信克	(財)結核予防会結核研究所	所長	地域における効果的な結核対策の強化に関する研究	2011/5/19	・重症呼吸器ウイルス感染症の原因となるウイルスが多数であることを踏まえ、その①サーベイランス、②病態解明、③制御に関する研究が総合的に進められている。 ・結核に関する他の厚生科学研究課題(加藤、岡田、小林)との内容的なオーバーラップが気になるところであるが、これまでのところはお互いにかなり工夫してそれを回避できていると思われる。そのなかでこの班はもっとも公衆衛生的、疫学的アプローチを用いた領域を受け持っている。	・研究課題が「重症呼吸器感染症」と幅広く設定しているため、どの内容にターゲットを絞るべきではないか。
1-1 (一般)	石川 信克	(財)結核予防会結核研究所	所長	地域における効果的な結核対策の強化に関する研究	2012/2/9		
1-2 (一般)	岡田 全司	独立行政法人国立病院機構(近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター)	センター長	海外から輸入される多剤耐性結核に関する研究	2011/6/13	・アジア諸国とパイプを有する多数の班員により構成されており、多剤耐性結核に関する我が国とアジア諸国との分子疫学的差異がクリアに研究されている。また、HIV合併例についても、複数の医療機関の症例をもとに研究が進められている。 ・国立病院機構という結核診療施設(とくに多剤耐性結核を含む重症例の多くを受け持っている)ネットワークを巻き込んでいる点は成果の還元うえで意義が大きい。多剤耐性結核問題については包括的にカバーされている。	・アジア諸国と我が国の結核の違いについて、多角的に研究が進められており、研究方針としては、素晴らしいものと考えられる。
1-2 (一般)	岡田 全司	独立行政法人国立病院機構(近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター)	センター長	海外から輸入される多剤耐性結核に関する研究	2011/11/20	・中国、ベトナム、タイ等での情報、検体収集・分析、国内発生の外国人患者の分析などよく取り組まれている。全国の結核診療の中心的な役割を果たしている国立病院機構のネットワークをまきこんでおり、研究を通して診療に成果が還元されやすいと期待される。	
1-3 (一般)	押谷 仁	東北大学大学院	教授	新型インフルエンザ発生時の公衆衛生対策の再構築に関する研究	2011/12/23		
1-4 (一般)	影山 努	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	感染症の予防、診断・治療又は医療水準の向上のための臨床的研究			
1-5 (一般)	片山 和彦	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	網羅的ロタウイルス分子疫学基盤構築とワクチン評価	2011/5/30	・ロタウイルスワクチン導入を目前にし、ロタウイルス感染症の実態把握は必要であり、重要な研究である。必ずしも症例が多くないロタウイルス感染症の罹患率は不明な点が多く、population-based studyの方向性は妥当である。	・研究班の計画段階で、サーベイランスの基本的な方法、班の構成員などはもっと議論を煮詰めておき、そのうえで予算規模も考えるべきではないか。
1-6 (一般)	加藤 康幸	独立行政法人国立国際医療センター	国際医療支援室長	我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療・予防等の臨床的対応及び積極的疫学調査に関する研究			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-7 (一般)	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	バイオテロに使用される可能性のある病原体等の新規検出法と標準化に関する研究			
1-8 (一般)	小林 和夫	国立感染症研究所 免疫部	部長	潜在性抗酸菌感染症の病態機構の解明及び診断・治療・予防に関する研究	2011/6/6	・基礎研究としてはレベルの高い、非常によくまとまったチームとの印象を受けた。 ・企画の評価できる点 1) 幅広く議論がなされた。 2) 結核の研究には基礎研究者から臨床医まで幅広い視野で解析をすることが求められる。臨床医だけの研究、基礎研究者のマウスを用いた研究では研究の解離ができる。マウスの実験では臨床の実態を反映しないことが多い。その点では本研究班の基礎研究者はアイデアと理論があると感じられ、臨床医との協同研究が求められる。杉田昌彦班員や松本壮吉班員の考えには傾聴すべき内容がある。	・本評価委員は東京女子医科大学現役時代には急性感染症に取り組んでいたが、臨床医、病棟との協同研究には苦労したことがあります。それ故に、同じ大学内の臨床医との関係を大切にしてきました。結果として Y. Matsuda et al. Emerg. Infect. Dis. 9: 387 2003.; N. Takahashi et al. Lancet 351: 164, 1998.; N. Takahashi et al. J Clin. Invest. 106: 1409, 2000. その他の成果が得られました。特に他の病院・大学間の協同研究は容易ではありません。しかし、得られれば、成果も大きいと期待できます。結核の症例は他の感染症とは異なり、「長持ち」があるので期待できます。
1-8 (一般)	小林 和夫	国立感染症研究所 免疫部	部長	潜在性抗酸菌感染症の病態機構の解明及び診断・治療・予防に関する研究	2011/12/5		
1-9 (一般)	杉山 和良	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室	バイオセーフティ管理室長	国際的なバイオリスク管理の基準に基づく病原体取扱いと管理のモデル総合システムの構築と検証に関する研究			
1-10 (一般)	高崎 智彦	国立感染症研究所 ウイルス第一部	室長	我が国への侵入が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策の確立に関する研究			
1-11 (一般)	田代 真人	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	センター長	高病原性の新型インフルエンザ発生に対する事前準備及び、緊急対応に関する研究			
1-12 (一般)	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	予防接種後副反応サーベイランスの効果的な運用とその行政的な活用あり方に関する研究	2011/9/8	・小児の予防接種後におこる副作用を主題にした研究会である。海外(特に北欧)での予防接種の状況の説明があった。本来予防接種後の副作用の研究は厚労省ではあまり熱心ではないとの意見がなされた。その理由は、副作用が出た時に裁判等で敗訴にならないようにきちとした証拠固めがなされにくいという指摘であった。副作用の基礎研究に独立性がなされていないという。今回の原発事故における「調査する側」と「監視する側」が一つの省庁でなされていることと類似しているという指摘である。この指摘が的を得ているかどうかの筆者の判断は保留であるが、日本国全体を考えれば、討議すべきことであろう。	・今後どのように研究が深化するかを見ます。
1-12 (一般)	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	予防接種後副反応サーベイランスの効果的な運用とその行政的な活用あり方に関する研究	2012/1/24		
1-13 (一般)	永田 恭介	筑波大学大学院人間総合研究科	教授	インフルエンザウイルス複製に関与する宿主因子とウイルス因子のインターフェースを標的とした新規抗ウイルス薬探索の基盤研究			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-14 (一般)	野崎 智義	国立感染症研究所 寄生動物部	部長	顧みられない寄生虫病の効果的監視法の確立と感染機構の解明に関する研究			
1-15 (一般)	長谷川 秀樹	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	室長	経鼻インフルエンザワクチン等粘膜ワクチンの有効性に関する研究	2011/11/18		・第一回の班会議ゆえに研究成果の発表ではなく、各自のこれまでの研究と研究計画の紹介であった。HTLVについての研究班は4つほど立ち上げられた。競争と連携がこれらのあいだで持たれるとよいと思われる。
1-16 (一般)	浜口 功	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	部長	HTLV-1感染症の診断法の標準化と発症リスクの解明に関する研究			
1-17 (一般)	廣田 良夫	大阪市立大学大学院 医学研究科公衆衛生学	教授	予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究	2011/9/30	・予防接種行政の科学的基盤に係る研究である。研究課題と研究内容が、一致しており、有意義な結果が期待できる。百日咳、肺炎球菌、インフルエンザにわけて、分担当が構成されており、効率的な研究体制が確立されている。症例数も、十分であり、対象群と比較的できるよう、慎重な検討が加えられている。	・平成6年の予防接種法改正の際、策定した「予防接種ガイドライン」は主として、臨床家を中心とした、研究班をベースに行われたものである。今後、予防接種行政を進めていく上で、本研究班と行政サイドとの緊密な連携を図り、予防接種行政に研究成果が的確に反映されることを望みます。
1-17 (一般)	廣田 良夫	大阪市立大学大学院 医学研究科公衆衛生学	教授	予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究	2012/1/22		
1-18 (一般)	宮崎 義継	国立感染症研究所 生活活性物質部 (真菌症担当部門)	部長	地域流行型真菌症の疫学調査、診断治療法の開発に関する研究	2011/7/20	・c.gattiiについて、臨床、病理、ゲノム解析、診断法の確立など必要な研究がなされている。特に評価できる点は、それぞれの研究者の研究が有機的に連携していることであり、相乗効果をもたらしていることである。また、診療指針の策定については、行政の立場としては、特に期待しているものであり、是非とも、有用な指針が策定されることを期待している。	・研究班の構成が割に少人数であるが、それぞれが有機的に連動して研究するためには、この程度の人数がちょうどよいものと思料される。
1-18 (一般)	宮崎 義継	国立感染症研究所 生活活性物質部 (真菌症担当部門)	部長	地域流行型真菌症の疫学調査、診断治療法の開発に関する研究	2011/12/22	・今年度の成果として、①JPO1株は既知のクリプトコックス株と比較し、きわめて高い病原性を持つ可能性がある、②治療法に関して、従来のクリプトコックス症に対する治療法でよいのかエビデンスが少ない、③ヒト、特に日本人の健康に及ぼす影響が未知数である、④このような高病原性株を同定できる簡便な方法がない、⑤病態について解明されていない部分が多い、ことが明らかとなった。今後、2、3年目の研究について、これらの事項を明らかにすることによって、厚生行政への貢献が期待できる。	
1-19 (HTLV)	増崎 英明	長崎大学 医歯薬学総合研究科 展開医療科学講座(産婦人科)	教授	25年間継続した妊婦のHTLV-1抗体検査から得られた母子感染予防効果の検証および高精度スクリーニングシステム開発	2011/9/18	・HTLVやAIDSらの学会で、増崎先生、田中先生、駒野先生、長谷川先生ら新規の振興再興研究事業の班長と、他の班長(文科省科研究費、厚労省研究費)の合同披露会議でありました。このなかで上記4名の先生はなかなか意欲的な研究の展望を披露されました。これからの3年間の研究成果が期待されるという印象を得ました。	

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-20 (HTLV)	田中 勇悦	琉球大学 大学院医学研究科	教授	HTLV-1感染拡大を阻止するワクチン ならびに抗体医薬等の開発基盤の確立	2011/9/18	・HTLVやAIDSらの学会で、増崎先生、田中先生、駒野先生、長谷川先生ら新規の振興再興研究事業の班長と、他の班長(文科省科研費、厚労省研究費)の合同披露会議でありました。このなかで上記4名の先生はなかなか意欲的な研究の展望を披露されました。これからの3年間の研究成果が期待されるという印象を得ました。	
1-20 (HTLV)	田中 勇悦	琉球大学 大学院医学研究科	教授	HTLV-1感染拡大を阻止するワクチン ならびに抗体医薬等の開発基盤の確立	2011/10/11	・HTLV-V感染拡大を阻止するワクチンならびに抗体医薬等の開発基盤の確立のためには、まず、細胞培養系と小型動物モデルが必要となる。ワクチンや新薬の開発において、新規候補薬を評価するためである。本研究班においては、まず、HTLV-1感染防御を確実に評価できる高感度のin vitroと動物を用いる実験系を確立する作業からスタートすることとしており、平行して、既存ワクチンと抗体医薬候補の感染阻止効果の検証を検討している点で、研究計画がしっかりしていると考えられる。	・過去に、HIVに係る研究費が大幅に増額されたことがあり、HTLV-1研究者がそちらに移行したことが、現在のHTLV-1研究の進展に影響を及ぼしているとのことであった。
1-21 (HTLV)	駒野 淳	国立感染症研究所 エイズ研究センター	主任研究官	プロウイルスゲノム破壊による革新的 HTLV-1関連	2011/9/18	・HTLVやAIDSらの学会で、増崎先生、田中先生、駒野先生、長谷川先生ら新規の振興再興研究事業の班長と、他の班長(文科省科研費、厚労省研究費)の合同披露会議でありました。このなかで上記4名の先生はなかなか意欲的な研究の展望を披露されました。これからの3年間の研究成果が期待されるという印象を得ました。	
1-22 (HTLV)	長谷川 秀樹	国立感染症研究所 感染病理部	部長	HTLV-1感染予防ワクチンの開発に 関する研究	2011/11/18	・HTLVやAIDSらの学会で、増崎先生、田中先生、駒野先生、長谷川先生ら新規の振興再興研究事業の班長と、他の班長(文科省科研費、厚労省研究費)の合同披露会議でありました。このなかで上記4名の先生はなかなか意欲的な研究の展望を披露されました。これからの3年間の研究成果が期待されるという印象を得ました。	
1-23 (若手)	堀田 昭豊	国立感染症研究所 獣医科学部	主任研究官	野兔病菌亜種間の病原性相異および 動物種間の野兔病感受性の相異に 関する研究			
1-24 (若手)	吉川 友章	大阪大学	助教	体表面サイトカインクロストークならび に抗原動態の最適制御による新規イ ンフルエンザ粘膜ワクチンアジュバ ントの開発			
1-25 (若手)	渡利 彰浩	大阪大学	助教	バイエル板指向性分子を利用した経 口ワクチンの開発			
1-26 (指定)	富澤 一郎	国立感染症研究所	企画調整主幹	新興・再興感染症研究事業の総合的 推進に関する研究			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-27 (指定)	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	アジアの感染症担当研究機関とのラボラトリーネットワークの促進と共同研究体制の強化に関する研究	2012/2/10		
1-28 (指定)	田代 真人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	センター長	細胞培養インフルエンザワクチンの実用化および流行予測とワクチン株選定に関する研究に関する研究			
1-29 (指定)	庵原 俊昭	国立病院機構三重病院	医局院長	沈降インフルエンザワクチンH5N1新規株による免疫原性・交叉免疫性を含めた追加接種効果に関する研究			
2-1 (一般)	信澤 枝里	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	新型インフルエンザH1N1のウイルスの病原性等の解析に関する研究			
2-2 (一般)	小林 信之	国立国際医療研究センター戸山病院呼吸器科	医長	新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化の要因の解明に関する研究	2011/7/23		
2-2 (一般)	小林 信之	国立国際医療研究センター戸山病院呼吸器科	医長	新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化の要因の解明に関する研究	2012/1/21		
2-3 (一般)	切替 照雄	国立国際医療センター研究所感染症制御研究部	部長	新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究	2011/7/21	・震災後における院内感染症対策について、今般の震災を踏まえて、具体的に検討がなされている。	・院内感染症を含め、震災後に、どのような感染症が流行しているかを現場として知りたいという意見が多く出された。
2-4 (一般)	石井 健	独立行政法人医薬基盤研究所創薬基盤研究部アジュバント開発プロジェクト	プロジェクトリーダー	インフルエンザワクチンの有効性と安全性の向上のための理論基盤構築	2011/5/12	・インフルエンザワクチンを効果的に活用するため、「単に研究のためにワクチンを開発する」、ではなく「基礎研究結果や臨床治験結果による問題点を起点としてエビデンスを形成し、最終的にはワクチン行政や感染症対策そして開発の方向性の判断の理論基盤を賦与する」という趣旨で行われており、厚生労働科研究費としての的確な研究がなされていると考える。また、研究内容についても、①アジュバントの有効性・安全性を定義する分子レベルでの理論基盤構築、②粘膜ワクチンの有効性・安全性、③ウイルス株間の防御高原の交差反応性、④ヒトの検体を用いた免疫学的方法で検討する臨床研究と、研究課題に即した内容となっている。	・インフルエンザワクチンの有効性と安全性に関する研究については、個々の研究者により、その専門領域が深く掘り下げられているところだが、全体を把握して、調整(オーガナイズ)する機関(又は人)が必要だと考えられる。
2-4 (一般)	石井 健	独立行政法人医薬基盤研究所創薬基盤研究部アジュバント開発プロジェクト	プロジェクトリーダー	インフルエンザワクチンの有効性と安全性の向上のための理論基盤構築	2012/1/20		